

	チェック項目	達成度	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	A	感染対策や夏休み等で利用人数が多い時は、工夫・配慮することができている。
	2 職員の配置数は適切であるか	A	適切である。1対1の対応がとれている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の整備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	A	手すり、バリアフリー、障害者用トイレを完備。聴覚障害、発達障害のあるお子様に対して、手話、絵カード、スケジュール等を活用し支援を行う。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	A	定期的に換気、消毒を行っている。また、一日の最後には、オゾン除菌脱臭機を使用し清潔な環境作りを心掛けている。活動内容に応じて、プレイホール、園庭など使用している。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	A	職員全員で何事も振り返り、記録等に残し必要に応じ改善にも努めている。
	6 保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	A	実施しているが、もっと保護者様のご意見を聞ける場を作りたいと思っている。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	A	実施している。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	A	外部評価を受けていない。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	A	全スタッフが年1回以上、本人に合った研修を受けられるように調整している。事業所内で行われる研修には、当日参加できなくても、後日資料やビデオなどで全員が確認をしている。研修の内容を報告周知することで、職員のスキルアップに繋げている。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	A	保護者様からの情報を大切にしている。アセスメントが適切か職員全員で分析し、個別支援計画に反映している。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	A	実施している。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	A	アセスメント・モニタリングを行い、適切な支援内容か具体的に分かりやすく書いているか職員全員で確認し実施している。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか。	A	定期的に話し合いの場を設け確認を行っている。

	チェック項目	達成度	改善目標、工夫している点など
適切な支援の提供	14	B	担当だけで進行しないよう、スタッフ全員が把握出来るように活動(支援)ノートを作成しチームで行えるよう改善を行った。
	15	B	職員全員で話し合い、お子様の発達や特性、季節・天候なども踏まえて活動計画を作成するようにしている。固定化しないよう、活動(支援)ノートを作成し、今後の活動決めの参考になるよう改善を行った。
	16	A	お子様のニーズに応じて、カンファレンスを行い個別活動と集団活動を組み合わせている。
	17	B	療育担当で起案した目的と内容を他の職員に伝え、工夫できる点がないか、注意点などを話し合い、役割分担も確認を行い実施している。当日出来ないことがある為、療育ノートを作成している。
	18	B	業務終了後に振り返りや意見交換を行っているが、全員揃うことが難しい場合は、翌朝のカンファレンスで話し合いの場を持ち改善等を行っている。
	19	A	支援内容を分析し、記入している。今後の支援に活かせるように分かりやすい、読みやすい記録を心掛け行っている。
	20	A	定期的にモニタリングを実施し、支援の見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携	21	A	担当者が参加し、必要があれば、機能訓練担当職員、児童発達支援管理責任者も参加させていただく事もある。
	22	A	適宜情報の共有を図っている。
	23	A	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか
	24	A	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか
	25	A	移行支援として、保育所や幼稚園、認定こども園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか
	26	A	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか
	27	A	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか

	チェック項目	達成度	改善目標、工夫している点など
関係機関や保護者との連携	28	C	新型コロナウイルス感染状況にて、隣接する託児所や子育て支援センターのお子様や利用児の兄弟児と関わる機会が難しい。 今後も感染状況をみて、保護者様のニーズに合わせて随時検討を行う。
	29	A	担当者を決めて参加している。
	30	A	来園、降園時に保護者様との会話を大切にし、支援の内容や課題も共有している。
	31	B	同施設内の総合相談室で行っている。
保護者への説明責任等	32	A	契約時に、文書に記載し口頭で説明を行っている。
	33	A	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか
	34	A	面談時以外に、来園、降園時に相談を受けることが多いが、スタッフからも尋ねたり、保護者様の表情を見て話を聞くようにしている。 別途時間を取って対応することもある。個々に対応することが難しい場合は上司に報告し、必要であれば、他の専門機関とも連携し支援を行っている。
	35	C	新型コロナウイルス感染状況で出来ていない、懇親会・親子遠足等の保護者様同士が交流できる場を感染状況が落ち着いたら、再開していきたい。
	36	A	その場で返答できないような場合は、回答期限を確認し、それまでに回答するようにしている。 苦情受付担当、第三者委員他定め、契約時に周知している。また、実際に苦情があれば、速やかに上司に報告し、実態の把握に努め、対応を図っている。
	37	A	施設広報誌、通所事業ごとの便りを毎月発行し配布している。また、必要であれば随時お知らせを発行している。
	38	A	個人情報の取り扱いについて明文化し、契約時だけでなく年に1回、再度確認している。
	39	A	重要な事項については、文書やイラストを用いて伝えている。
	40	B	新型コロナウイルス感染状況により実施出来ていない。事業所内の地域住民を招待した行事再開をしていきたい。 見学等は、感染対策を遵守していただき対応している。

	チェック項目	達成度	改善目標、工夫している点など
非常時の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実地しているか	A	マニュアルを策定し、職員は周知している。保護者様へは、緊急時、感染時の対応については契約時に文書に記載し、口頭でも説明している。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	A	月に1回防災訓練日を設け、避難・誘導・消火訓練等を計画的に行っている。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	A	契約時にアナムネを確認し、面談時には再確認している。体調不良時は、その都度情報収集をしている。保護者様と情報共有を心掛けている。
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	A	保護者様より食物アレルギーについてお聞きし、医師の指示のもとに食事箋を処方し、給食を提供している。クッキング活動等を実施する際に毎回保護者様へ確認を行っている。
	45 ヒヤリハット事例集を作成して、事業所内で共有しているか	A	スタッフ全員が、目につく場所に掲示し、朝礼や終礼で報告し合っている。注意点、改善点等の話し合いの場を設けている。
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	A	施設で研修を実施している。
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	A	契約時に、個別の身体拘束説明書を作成し口頭でも説明を行っている。身体の保護等のためやむを得ず行動を制限した様な場合には、その都度保護者様へ説明し同意のもと行っている。また、書面にも残し保護者様へ開示している。